

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol. 6 今宵もまたつつがなく

その日、日本の某知財団体とX国の某知財団体の交流会は、例年のごとく、“つつがなく”行われた。

クローズド・ミーティング(関係者のみの会合)、オープン・セミナー(誰でも無料で参加可能)、レセプション(誰でもカネを払えば参加可能)という、朝から夜までのフルコース。その司会を仰せつかった筆者。その結末や、いかに？

朝は9時スタート予定。「みんな、期限を守るプロの代理人たち。9時と決めたんだから、9時きっかりにスタート！」……と考えるのはトーシロ(?)。

実は、前夜21時、X国代表団の一人からその極秘情報を得ていた。「明日、早朝ミーティングがあって、9時までのな」。

あのお～、ワタシたちとの会合スタート時間、ご存じ？

「大丈夫、早朝ミーティングを早く切り上げるから」。いずれにしても、時間変更をメンバーに伝えるにはもう遅い。。

で、翌朝9時。日本側全員集合。X国側は集まらず……。

15分の経過に焦る筆者。

「ええ～、自己紹介の時間がありませんので、司会から紹介させていただきます！」と日本側メンバーを紹介……したつもりが、「A氏を抜かしたよ」「B氏の苗字が違うけど」との指摘を受け、大混乱。すみませ～ん！

朝だけで、いずれも濃厚なプレゼンを8つ。「12時までに終わるんかい？」ってことばかり心配で、ろくに資料も見ず。「スライド、ちょっと抜けてるかな？ パワポが届くのも遅かったし、最終バージョンは昨日できたって聞いたし」ぐらいで気にせずにいた。ら、休憩中に事務局が飛んできて「偶数ページが全部抜けてましたっ！今、印刷してます！」。ま、マジっすか！？

気を取り直して後半スタート。「時間、押してます、質問、ないですね、飛ばしますよ！」という冷酷な司会に徹し、無事12時に終了と思いきや。日本側役員が挙手して、「ひといいい？」「はいどうぞ！」。しかし頭の中では「次はランチだ。通訳さんとの打ち合わせも連絡し、えっと……」ってアレ？今の役員さん、日本語で話してませんでした？

「葦原さん、今の訳して」だあ～、聞いてないよ！

昼、セミナー開始。1人当たりの持ち時間も何のその、講演者は自分のスピーチに超真剣。目の前にいるタイム・キーパーの存在も視界の外という様子。

「あと5分」のサインをタイム・キーパーから奪った筆者。壇上下に躍り出て、揺らす。「みなさ～ん、時間ですよお～！」

なんか、疲れた。。。でも、残るはレセプション。これは通常、①招待側の挨拶→②ゲスト側の挨拶→③乾杯という流れ。

今回は①と③が同一人物だと聞いていた。「挨拶の後、そのまま乾杯のご発声を」と連絡済み。

筆者はスピーチを聞きながらワインでほどよく酔いつつ「本日の任務完了！」と思ったら。。。[①と③の間にX国側の挨拶“②”があるんだけど、大丈夫?]との連絡！「えっ!? その乾杯、待っ

てえ～！」と言おうとしたその時、既に壇上では満面の笑みでグラスを掲げている。そして、「それでは、みなさん！乾杯！！！」。

交流会と名が付くものは、多かれ少なかれ毎回エピソードにあふれている。すべては想定内の範囲なのだ。「臨機応変」こそが成功のキーワード。

今年も良い交流会でした。そして、来年こそ。。。ホントの本当に、つつがなく！？



※ 撮影協力: デリリウムカフェーキョー(霞が関)